

日本原子力学会 炉物理部会 第 65 回全体会議 議事録

日時： 2026 年 9 月 10 日（水） 12:05～12:55

場所： 日本原子力学会 2026 年秋の大会 愛媛大学城北キャンパス
F 会場（共通講義棟 A 3F 多目的レクチャー室 2）

参加者：50 名程度

【表彰】

1. 炉物理部会賞受賞者・感謝状贈呈者紹介、表彰

資料 65-01(1)を用いて、部会長より令和 7 年度炉物理部会賞 優秀講演賞(2026 年春の年会)の表彰が行われた。被受賞者は以下の 3 名。

件名： BWR 単一集合体連成解析における POD タリー基底作成に関する検討
受賞者：近藤 諒一（日本原子力研究開発機構）

件名： 勾配補正を適用した粒子法に基づく中性子拡散計算に関する検討
受賞者：汲田 翔吾（名古屋大学）

件名： ^{252}Cf 線源を利用した非増倍体系での中性子雑音解析による中性子減衰定数測定
手法の開発
受賞者：大橋 諒之介（名古屋大学）

資料 65-01(2)を用いて、部会長より令和 8 年度炉物理部会賞の表彰が行われた。令和 8 年度は以下の奨励賞 1 件が授与された。

件名： 不連続有限要素法に基づいた中性子輸送計算の高度化に関する検討
受賞者：笠間 陸斗（日本原子力研究開発機構）

資料 65-01(3)を用いて、部会長より 2024～2025 年度に部会運営に携わられた方々に感謝状を贈呈することが報告された。代表として、牛尾前部会長に感謝状が贈呈された。本会議に出席していない方に対しては、感謝状を郵送する。

【審議事項】

2. 令和 8 年度予算執行状況及び 9 年度予算案

資料 65-02 を用いて、財務小委員会担当幹事より、令和 8 年度予算執行状況と令和 9 年度予算案について報告された。令和 9 年度予算では、国際会議旅費補助を 18 万円（4.5 万円×4 名）から 45 万円（15.0 万円×3 名）に変更すること、その予算には繰越金を原資とすることが提案された。審議の結果、承認された。

Q 繰越金の使用について、どのような手続きが必要となるか？

A 学会事務局に対し、予算申請フォーマットに所定の内容を入力して申請する。また、繰越金の使用に関する部会の承認エビデンスが必要となるが、本会議の議事録をつけることで対応可能である。

3. 2027 年春の年会企画セッションについて

資料 65-03 を用いて、学術交流小委員会担当幹事より、2027 年春の年会で「JAEA での核計算コード開発と今後の展望」をテーマに行うことが提案され、承認された。

【報告事項】

4. 第 57 回炉物理夏期セミナー開催報告

資料 65-04(1)を用いて、セミナー小委員会担当幹事より、第 57 回炉物理夏期セミナーの開催報告がなされた。

資料 65-04(2)を用いて、セミナー小委員会担当幹事より、第 58 回炉物理夏期セミナーの準備状況が報告された。

Q 喜捨箱での軽食代のカンパについて、寄付金を使い切れなかったため次回担当幹事に引き継いだとのことだが、その方法では年々額が膨れ上がる可能性がある。当該年度で使い切り、引継ぎしない方が適切と思われるが、どうか。

A ご指摘のとおりであり、頂いた寄付金は当該年度で使い切るようにする（例：軽食提供、募金等）。

5. 宇宙原子力技術専門研究委員会 活動報告

西山氏より、宇宙原子力技術専門研究委員会の活動内容が報告された。2025 年 9 月に中間報告書が発行されたこと、発足時には関連部会が炉物理部会であったが、関連分野が多岐に渡ることから、現在は関連部会が新型炉部会に変更となったことが説明された。

6. 原子力学会の専門委員会における「関連部会」について

資料 65-06 を用いて、部会長より原子力学会の専門委員会における関連部会について報告された。

7. SNS 活用検討タスクチーム活動中間報告

SNS 活用検討タスクチームの活動状況についてタスクチームリーダーを務める相澤氏より報告された。10 月以降ベータ版として試運用開始、ベータ版活用状況を踏まえ 3 月の春の年会にて正式に活用するかを検討する。

8. 国際臨界安全ベンチマーク評価プロジェクト（ICSBEP）技術レビュー会合の日本での開催について

郡司氏より、国際臨界安全ベンチマーク評価プロジェクト（ICSBEP）技術レビュー会合の日本での開催について報告された。炉物理部会会員、特に原子炉施設を有する会員についてオブザーバとしての参加を期待すること、開催経費に対し支援をお願いしたい旨が紹介された。

以上